野　草　観　察

仲間の花 勢揃い―11

前回に続いてキク科の花 18 種（№163～180）を紹介します。

オオアレチノギク　　ヒメムカシヨモギ

双方よく似た花をつけますが、オオアレチノギクの花の周りには花びら状のもの（舌状花）はほとんど目立ちませんが、ヒメムカシヨモギは白い舌状花が多く並んでいます。
共に、市街地のちょっとした空地や工事現場、河川敷などで多く生育しています。

左側はヒメムカシヨモギ
その他はオオアレチノギク

オオアレチノギク

ヒメムカシヨモギ

コセンダングサ　　アメリカセンダングサ

ハイアワユキセンダングサ

シロノセンダングサ

ハイアワユキセンダングサの茎は、いったん横に這った後に立ち上がるので、「這い」の名があります。シロノセンダングサは、コセンダングサ(№165)の変種で、舌状花(白い花びら状のもの)が 4～7 個あります。

ヒヨドリバナ

フジバカマ

キダチコンギク

シロヨメナ

ノコンギク

ネバリノギク

フランスギク

ブタナ

ウラジロチチコグサ

ハハコグサ

ウラジロチチコグサの茎と葉の裏には白色の綿毛が密生していて、白っぽく見えます。

ハハコグサについては、「新牧野日本植物図鑑」から引用します。

『小さな黄色い粒々が花だとは分かっていたが、あの一つひとつが頭花で、一つの頭花の中の方は両性、周囲は雌性の筒状花の集まりで、しかも両方とも結実して冠毛を飛ばすと

は思いもよらなかった。 何の変哲もない黄色い粒の極小の精密さには言葉も無い。』

ブタクサ　　オオブタクサ

双方ともにブタクサ属で、花粉症を起こすことで知られる風媒花です。
また、雌雄異花で、茎の上部に穂状の雄花を、その下の基部に雌花をつけます。
下の写真は雄花と雌花のアップです。